

支部労働学校開催

決意を新たに次の一歩を

5月24日、第1センターにて「2026全港湾大阪支部労働学校」を開催しました。今年は関西5支部の統合により大阪支部結成50周年を迎える節目として、元委員長の馬場徳夫氏を講師に招き、「全港湾の歴史から学ぶもの」をテーマに講演を行いました。

講演では、全港湾の歩みを通じて労働組合の歴史・役割、組合活動の必要性を振り返り、先人たちが築いた成果と伝統を守り発展させつつ、変化する社会に対応した未来の労働運動を構築していく重要性を学びました。



アンケート集約結果（参加者からの主な声）

1. 講義の感想

多くの参加者が「知らなかった歴史が多く勉強になった」「今後の後輩指導に活かせる」と高く評価。過去の闘争、平和運動、港湾労働法の重要性、軍事荷役拒否などの具体例を通じて「先人たちの苦勞と団結が今の環境を作った」と実感した声が多数ありました。「わかりやすかったがもう少し長く聞きたかった」「1泊2日形式を希望」する意見や、「復習して知識を深めたい」「これからの活動に生かしたい」という前向きな感想も目立ちました。一方で「昔の話より今の話が聞き

たかった」という声もありました。

2. 労働組合の義務と権利について

「権利ばかり主張せず、義務・責任を果たすべき」「バランスが重要」との考えが主流。個人では企業と対等に交渉できないため、団結による交渉力の確保や、職場改善・後輩育成への貢献を義務と感じる意見が多く、「先輩たちが勝ち取った権利を守り、時代に合わせて新たに権利を獲得していく」必要性が強調されました。平和の重要性やハラスメント対策、外国人労働者問題への言及も見られました。



3. 大阪支部の将来について

労働者人口減少・執行部・専門部減少への危機感が強く、「激ヤバ」「不安」との声が相次ぎました。対策として「若い世代への加入促進」「SNS活用」「魅力ある賃金・休暇・労働環境の発信」「一人ひとりの意識向上」「学習会の継続」を挙げる意見が多数。AI時代の人手不足や少数精鋭化をポジティブに捉える声もある一方、「量より質」「団結力の強化」「外国人労働者対応」も課題として挙げられました。「一人ひとりが向き合い、魅力的な組合活動を作っていく」ことが未来のカギとの認識が共有されました。

全体を通じて、歴史学習の意義を再確認するとともに、組合員の減少対策と次世代への継承が急務であることが浮き彫りになりました。先人たちの伝統を守りつつ、新たな時代に適応した労働運動を構築していく決意を新たにした有意義な労働学校となりました。

（副委員長 吉本賢一）

だんけつ

第404号 2026年7月30日



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 陣内恒治



書記長 吉 馴 真 一

26年7月18日、アートホテル大阪ベイタワーにおいて、全日本港湾労働組合関西地方大阪支部（5支部統合）結成50周年記念式典を開催しました。

主催者あいさつとして、小林委員長から、今日の節目を迎えられたのは、歴代役員・組合員をはじめ、共闘労組、関係団体、会社関係者など、多くの皆様の支えがあってこそであると感謝の意を表しました。

大阪支部は、一港一支部方針のもと5支部が統合して発足し、半世紀にわたり、時代の大きな変化や自然災害、社会情勢の変化に直面しながらも、「働く仲間の生活と権利を守る」という使命のもと、賃金・労働条件の改善、安全で安心して働ける職場づくりに取り組んできた歴史を振り返りました。また、今日の権利や制度は諸先輩方の不断の努力によって築かれたものであり、その志を次世代へ継承していく責任があると強調しました。少子高齢化やデジタル化、AIの進展、多様な働き方への対応など、労働組合を取り巻く環境が変化する中でも、一人ひとりの声に耳を傾け、誰もが安心して働ける職場づくりを進める決意を表明しました。さらに、平和なくして労働運動は成り立たないとの理念のもと、団結と連帯を大切にしながら、大阪支部のさらなる発展と次の60年、70年、そして100年へ向け、新たな歴史を築いていくことを誓いました。

式典には、多くの来賓、友誼団体、関係者の皆様にご臨席いただき、支部結成50周年の節目を祝うとともに、これまでの歩みを振り返り、今後の運動のさらなる発展を確認し合う意義深い一日となりま

した。

また、式典後半では、大阪朝鮮歌舞団の皆様による記念演目が披露されました。大阪朝鮮歌舞団は、1965年に創団され、本年で60周年を迎えられました。大阪支部とは、南大阪平和人権連帯会議を通じて40年以上にわたり、平和と人権を守る活動を共に取り組んできた大切な仲間です。当日は、平和への願いと日本との友好関係の発展、国交正常化の早期実現への思いを込めた歌と踊りを披露され、会場に大きな感動を届けていただきました。

50周年という大きな節目を迎え、これまで先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統の重みを改めて胸に刻みました。同時に、その歩みを受け継ぐだけでなく、私たち自身が新たな時代を切り拓く担い手であるとの自覚を持ち、未来へ向けた運動を力強く前進させていかなければならないとの決意を新たにしました。港湾を取り巻く環境や働き方が大きく変化する中、組合員一人ひとりが主体性を持って行動し、職場の声を結集しながら、仲間との対話と団結をさらに強めていきます。そして、働く者の権利と誇りを守るため、時代の変化に果敢に向き合い、次世代へ運動の意義と精神を継承しながら、未来を切り拓く取り組みを進めてまいります。

結成50周年を新たな出発点として、組合員一同、先輩方から受け継いだ「団結・連帯」の精神を力に変え、大阪港湾労働運動のさらなる発展に向け、常に先頭に立つ気概を持って全力で取り組んでまいります。



支部50周年記念式典

大阪支部は今年、5支部（沿岸南・沿岸東・車両・木材・石炭）統合から50周年を迎え、7月18日、弁天町・アートホテル大阪ベイタワーで「全港湾大阪支部50周年記念式典」を開催しました。当日は、各分会・企業をはじめ、中央本部や各地方本部・支部の役員、共闘組合、友誼団体、業界団体、行政関係者、各級議員、弁護士など来賓を含む約240名が出席し、盛大な式典となりました。

式典は、青年部による「港湾労働歌」の大合唱で幕を開け、会場は大いに盛り上がりました。主催者あいさつでは、小林勝彦支部執行委員長が、50年の歴史への感謝と、その歩みを礎に平和を守り、仲間と団結しながら、時代の変化に対応できる労働組合を次世代へ引き継いでいく決意を表明しました。ご来賓からは、大阪支部の地域運動への貢献や今後の活動への期待、支部へのねぎらいの言葉が寄せられました。

第2部では、大阪朝鮮歌舞団の皆様による平和への願いを込めた歌と踊りが披露され、会場に大きな感動を届けていただきました。最後は、副委員長の閉会あいさつで締めくくられ、参加者一同が未来に向けて互いの健闘を誓い合い、盛会のうちに閉会しました。

本港湾労働組合関西地方大阪支部 周年記念祝



小林委員長あいさつ



鈴木中央執行委員長あいさつ



大阪朝鮮歌舞団による記念演目



50th anniversary

